

【知的財産法】

受験番号		氏名	
<p>【問題】現在、声優などの声をAIで模倣する事案が社会問題となっており、知的財産法や民法などを用いた「声の保護」が求められている。現行法による対応の限界について論じなさい。</p> <p><出題意図></p> <p>「声の保護」という新たな社会問題について、知的財産法や民法、あるいは刑法といった幅広い法律を駆使して横断的に考察する能力を測ることを目的とした出題である。（なお知的財産法は民法や刑法などの特別法としての側面を有しており、知的財産法を研究する上で、民法、刑法、憲法、行政法等の幅広い知識が必要となることは言うまでもない。）</p> <p>音商標としての保護（商標法）、周知・著名な商品等表示としての保護（不正競争防止法）、著作物あるいは実演としての保護（著作権法）、パブリシティ権・人格権（人声権）・名誉権・営業上の利益（民法）、名誉毀損・詐欺（刑法）等、さまざまな観点から「声の保護」を考えることができるが、いずれも一長一短である。これらのうち複数のものを取り上げて、現行法のどの部分にどのような課題があるのかを的確に示すことが求められる。</p>			